

第 15 回全国大会の開催にあたり 「大会テーマ：Society 5.0 の新しい情報科教育に向けて」

新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けまして、日本情報科教育学会（JAEIS）全国大会は、2020 年度（第 13 回）と 2021 年度（第 14 回）の 2 大会連続で、オンラインによる開催を余儀なくされました。しかし、この度の第 15 回全国大会では、大阪学院大学様のご協力を得まして、現地による開催ができる運びとなりました。2 年ぶりに現地開催ができることを嬉しく思います。大会の運営に携わり、準備を進めていただいた学会関係者の皆さまには、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

現在、情報科教育は新しい時代を歩んでいます。小学校では 2020 年度、中学校では 2021 年度、そして、高等学校では今年度から新学習指導要領に沿った新しい教育・学習がスタートしました。新学習指導要領では、現代社会の課題へ対応できる学習基盤としての資質・能力（言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等）の育成が求められています。情報教育に注目すると、小学校では「プログラミングの体験」をすること、中学校では「計測・制御やコンテンツに関するプログラミング」を行うこと、高等学校では「情報科の目標や育てる資質・能力など発達段階に応じた情報活用能力の育成」を目指しています。特に、高等学校では情報科の科目を再編し、全ての生徒が履修する「情報 I」を新設することにより、全ての生徒がプログラミング、情報セキュリティを含むネットワーク、情報デザイン、データベースの基礎的内容を学ぶことになりました。データサイエンスなど専門性の比較的高い内容も重要事項として挙げられています。また、2025 年度入学者選抜における大学入学共通テストに「情報」が加わる事が決定し、授業内容の精選も求められています。

このような情報科教育における大きな変革期にあって、STEAM 教育が注目を集めています。STEM (Science, Technology, Engineering, Mathematics) に加えて、芸術や文化、生活、経済、法律、政治、倫理等を含めた広い範囲で A を定義した概念であることは、皆さまもご承知の通りです。AI や IoT などの急速な技術の進展により社会が激しく変化し、多様な課題が生じている今日において、文系や理系といった枠にとらわれない各教科等横断的な学習の推進がより一層重要となり、各学校におけるカリキュラム・マネジメントの確立が求められています。

そこで、今大会では、我が国が目指すべき未来社会である“Society 5.0”に向けた情報教育ならびに情報科教育の発展と充実に向けて、どのような内容をどのように教えていくことが望ましいのか、新しい学習指導要領の円滑な実施に向けてどのように取り組んでいけばよいかを、カリキュラム・マネジメントや各教科等横断的な学習といったキーワードも含めて議論することを目指しています。今大会でも、研究発表はもちろんのこと、各種講演や企画セッション、パネルディスカッションといった様々な企画を用意しています。新しい情報教育ならびに情報科教育の発展と充実について、様々な知見を相互に意見交換する場にさせていただけますと幸いです。

2 年ぶりに現地での開催が再開されましたが、新型コロナウイルス感染拡大の脅威がなくなったわけではありません。大会運営に携わる我々だけでなく、参加者の皆さまひとりひとりが感染症対策をしっかり行った上で、安全・安心な大会にできればと思っております。2022 年 7 月 2 日（土）・3 日（日）が、皆さまにとって充実した 2 日間となることを祈念しています。

日本情報科教育学会全国大会企画委員会
委員長 浅羽修丈（北九州市立大学）

2022 年 6 月吉日